

DCフォーラム 2003年7月16日

“統計・データに関する最近の動向 - PRSPs, MDGs, 結果重視のマネジメントの観点から”

ハリソン牧子

昨今の国際レベルでの会合¹を通して生じてきたコンセンサス：

- 国際機関、バイラテラルドナー、途上国政府が国レベル、国際レベルの開発目標達成にどれだけ貢献できるかはデータの質とその入手可能性に根本的に依存している。
- この緊急かつ重要なデータ需要は統計の専門家や政策分析をする人たちのグループを超えて政策決定者、そして予算決定に携わる人たちに認識してもらう必要がある。
- そのためには優先順位がはっきりとした、タイムテーブルつきの、できる事ならばコストも記された国際レベルでの統計作成能力向上プランを準備する必要がある。

矛盾？

- 途上国 vs 国際機関
- 短期的 vs 長期的

好機

- PRSPs
- MDGs
- 結果重視のマネジメント
- PARIS 21

動向

- 途上国レベル - 戦略的マスタープラン(SMP)に基づく統計分野への長期的投資、MDGへの関心・国家政策との整合性の向上
- 国際レベル - ドナー間の調和、SMPに沿った途上国援助、MDGとPRSPの関係調査

¹ Roundtable on Measuring, Monitoring and Management for Result (summer 2002), Improved Support for Monitoring Development Goals Conference (June 2003), the Inter-Agency Workshop on Global Monitoring Meeting (June 2003).

新しいイニシアチブの例

- 国際レベルでの分業体制
 - Health Matrix (WHO, Gates Foundation, Center for Global Development etc.)
 - Infrastructure Data Initiative (WB Infrastructure VP)
- 教育指標 (UNESCO/WB)
- US - 保健衛生データ (Demographic and Health Survey)
- WB - TFSCB, STATCAP, PARIS 21
- UK - 自国政策評価にも役立つ途上国の統計キャパシティビルディング

日本の貢献

- PRSPがらみの統計キャパシティビルディング
- MDG モニタリング・目標達成への戦略
- 特定の開発分野への関心 - インフラ, 経済成長, etc.
- 日本の比較優位